

新聞雜誌

明治壬申四月

第四十號

定價二匁



特	別
18	
787	
40	



緒言

凡天下ノ物事ロニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑惟ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カクキ世ニ生レシカヒ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始ノ諸府諸縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞ニテ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國中
 ノ人々ト新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ナル心僻ノ事ヲ棄ントテナリ頑ハ此冊子
 ニ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ヲ驚可ク
 喜可キ事多ク唯一隅耳ヲ見ル田舎人タルヲ免ハス夏虫冰ヲ疑ノ笑有リト知
 玉ハサテコノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ヘケレ



新聞雜誌第四十號 明治五年壬申

○四月五日ノ御布令ニ散髪ノ儀ハ勝手次第タルヘキ
 昔先般御布告相成專ラ男子ニ限候處近來婦女子ノ中
 ニモザンキリ相成候者徃々相見ヘ畢竟御趣意ヲ取違
 候儀ニ可有之抑婦人女子衣類ハ素ヨリ男子トハ區別
 ノ御制度ニ候条婦女子ノ儀ハ従前ノ通相心得御趣意
 ヲ取違不申様可致候
 ○同府下道路家屋造製御改ニ甘差向過日燒失ノ跡ヨ
 リ經營相始追々一般ニ施行可致筈ノ處尚又今般

新聞雜誌第四十號

皇居ヲ始諸官省御取建ノ場所御治定相成隨テ一般市街分割ノ測量等被_レ仰出候ニ付テハ此際銘々心得方モ可有之候得共万一新規ノ家作等ニ許多ノ費用ヲ相掛候様ニテハ不都合ノ儀ニ付無餘儀場合ニ無之候ハ可相成丈見合可申候此段為念相達候

○千八百七十二年三月四日附米國華盛頓府外シヨ_一シトウ_レニ住セルヲンメ_一妻ヨリ津田氏ノ妻ハ来

翰ノ譯

御娘梅コト私宅ノ二階ニ吉益亮ト一_一所ニ居中候右向人ハ私共御引請御立話仕候マ、仕合ノ事ニ御坐候私

夫ハ當地ニテ御國公使附ノ書記官ニテ右公使館ハ私宅ヨリ近キ所ニ御坐候去ル火曜日ニハ日本ノ大使當府ハ御着弁務使_一杏様一方ナラス御待請ニテ万事御都合モヨロシク御同行ノ娘子タ子ハ私夫ノ妹御立話申上候様御約束仕候同人ハ私ト同居罷在候事ニ御坐候御娘ハ直ニ學校ハ寄宿為致候ニハ余リ早ク存候マ、杏様ヨリヨキ御差圖御坐候マテハ私方ハ御預リ置申上候積ニ御坐候懐子捨松繁子ノ三人ハ近所ニ住居イタシ居候_{以ハ横濱ニ寄宿セル有名ノ仁妹及シヲンメ}事日々雙方へ参り候テ御心添致シ居候皆々一同學

問修業ノ志シ厚ク感心仕候殊ニ梅ハ覺ヘ宜舗同人エ
逢候人々何レモ其立居振舞ヲコノミ褒メ申候是迄ノ
御育テ方宜舗事ト御ウワサ申上候私共一同梅ヲ祝シ
テ曰 巖母ノ其愛女ト遠隔絶スルヲ樂シムハ其子
天ヨリ稟ル處ノ戈智マルカ故ナリ 又君ヲ祝シテ曰
外國人ニ托スルニ適フ如斯愛情深キ小女ヲ得ル
ハ天ノ賜ナリ 私共一同既ニ梅ト懇親ヲ結ヒシ故ニ
若シ後来時アリテ別ル、節ハ如何ノナケキマランカ
ト唯今ヨリ心配罷在候大使節ノ来着ノ日ハ我國民一
方ナラス喜悅致シ候我國へ強キ網ヲ付テ御國ト益固

ク結ト付申度心地仕候御國人ノ我國民ヲ好ミ候事ハ
兼テ存シ居申候私共ニ於テモ日本人ニ友誼ヲ結ヘハ
結ブニ從ヒ猶、御ナツカシク相成益日本好キト相成
申候梅事ハ當府へ参リ候夜直ニ私宅ニ着致シ候事故
別段ニ御心安ク致シ候如何ノ人御垂話致シ居候哉御
兼知成サレ度思召候ハント存上候マ、私共寫真封入
仕候御覽給ハルヘク候梅出立ノ節遺ハサレ候寫真ハ
同人相樂ニ折々出シナガメ居申候殊ニ御側ニ坐シ居
候圖ヲ時々衆人ニ示シ申候梅ヨリモ深情ヲ御贈申上
候大人エモ宜舗御願申上候カシク

千八百七十一年三月四日
 右書翰ヲ觀ルニ彼國ノ文明一婦人ノ筆頭ニ頭ハレ人
 ヲ遇スル深切ナル實ニ感スルニ餘リ有テ我國ノ婦人
 ハ論ナク男子ニ至リテモ汗顔ニ堪サレナリ抑十年前
 疎意隔絶セル万里ノ外國モ今日ニ方テハ互ニ其婦人
 ヨリ書信往復スルニ至ル開化進歩ノ駁々タル亦知レ
 タリ冀ハ邦内四方ノ女學生能々注意シ勉勵アリタシ
 ○山口縣下ノ関ハ北國船往來ノ港ニテ問屋商賣ノモ
 ノ多ク土人大抵之ニ因テ生活ヲ為セリ然ルニ船主荷
 揚荷下シノ時土人荷物ノ貫目ヲ掛ルニ或ハ竹量ノ根

緒ノ穴ヲ大ニシテ其介目ヲ輕重シ或ハ掛ルハ濟ノ荷物ノ
 介目ヲ記スニ竊カニ其介數ヲ増減スル等種々ノ惡弊ア
 リ船主之ヲ知レテ防クハ難ハス從テ入港ノ船モ次第ニ少ナ
 ク土人モ亦其弊害ヲ受ケタリ此國屋市兵衛ナルモノ問
 屋商賣ノ者ニテ深ク之ヲ憂ヘ秤會所ヲ建テ出入ノ貨物
 ヲ掛ケ公平ノ商賣ヲナシ土人船主長ク其利ヲ受ケシメ
 ントノ企アルヨシ奇特ナル思ヒ付ナリ總テ海港繁盛ノ地
 賈船出入ノ處ハカ、ル惡弊多カルベシ獨リ下関ノミナ
 ラス且權衡ハ國家治具ノ要タリ其土ニ任スル者心ヲ用ヒ
 テ其弊ヲ除ク一ヲ務ムヘシト或人語レリ

○埼玉縣管下武州葛飾郡權現堂村農民其頭上丸坊主
又ハガンギリナル者廿九人匆卒縣廳工出昨夜半里正ナト
西三輩突然我々ヲ呼起シ命ナリ皆々散髪スヘシト剃
刀缺ヲ持テ暴ニ剃立テタル由訴シカ官負其他見ル人絶笑シ
内一西人ヲ留メ餘ハ早々歸村セシメ相手ヲ呼出シ聞知サレシ
ニ其日村中ノ例祭故家々神酒頂戴ノ餘リ今ノ半髪ニテハ徒
刑人ニ紛ハシク結末不弁ナラントテ私共真先キニ切り廉忍ニ
申勸メ事實ハ一同申立ノ通り素ヨリ酒狂ニ相違無之令更
悔悟恐入ケル由述シカハ夫々説諭アリテ雙方遺恨ナク
歸村シタリト此事廉暴咎ムヘシト雖モ又是僻陋開化

ノ一端氏云ベキ奇事ナランカ
○三猪縣ハ筑後全國高五拾三萬石余ニシテ元久留米
柳河三池縣等ノ所轄故其勢力分離シ四民相軋ルノ情
態甚シカリシカ今般全州一管轄トナリテ夫々改正ノ
方法ヲ立テ既ニ元柳河縣ハ是迄ノ里正ヲ一般ニ擯斥
シ更ニ公詮ノ法ヲ以テ士農工商ヲ不論人望才力アル
者ヲ拔擢シ之ニ戶長ヲ命シテ里正ノ事務ヲ兼サセシ
故昨日ノ門閤官負モ今日ハ一里正トナリテ各區内へ
出張シ大ニ朝旨ノ貫徹スル端緒ヲ開キタリト云

日本諸旗章圖譜

<p>工部省附屬 船電信丸船 柱旗 幕</p>	<p>各開港場航関并監船 旗章</p>	<p>尺三 一尺五寸 武庫司 紅 白</p>
<p>日本商 船記 夕八尺 夕六尺</p>	<p>工部省 御艦旗 章</p>	<p>寸五尺三 二尺五寸 司兵造 紅 白</p>
<p>工部省測量之標 道管鉄</p>	<p>工部省測量之標 道管鉄</p>	<p>尺三 二尺五寸 大 小 荷 駄 紅 白</p>
<p>全府下測量標目 旗章</p>	<p>全府下測量標目 旗章</p>	<p>尺四 二尺九寸 病 院 青 紅 白</p>

<p>當直旗 紅布白山形 夕六尺 ヨコ八尺 護送船旗 白布紺山形 同上</p>	<p>皇族旗 圭背地錦布紅 日章 寸法同上</p>	<p>御旗 錦布金日銀 月章 夕七尺八寸 ヨコ一丈一尺七寸</p>
<p>水路嚮導旗 白布紺隅 夕六尺 ヨコ八尺 燒 白布紅日 長八間</p>	<p>海軍旗 白布紅錨紅 山形二條 夕一丈 ヨコ一丈五尺</p>	<p>御国旗 白布紅日章 夕九尺一寸 ヨコ一丈三尺</p>
<p>陸軍御国旗 白布 夕四尺四寸 ヨコ五尺</p>	<p>將旗 白布紅日章 夕一丈 ヨコ一丈五尺</p>	<p>祝日可用分 御国大旗 同上</p>
<p>大隊旗 白布紅山形 夕六尺三寸 二尺九寸 總嚮導旗</p>	<p>將脚船旗 白布紅日章 夕一丈 ヨコ一丈五尺</p>	<p>臨時行幸之節前驅 御旗 精好色紺 御紋金 夕一丈二寸 ヨコ一丈六寸</p>

○故赤穂縣ノ医荻野大見ナル者経年東京横濱ヲ歴學シ當時芝濱松丁ニ住居シケルガ三月廿三日夜金杉四町目吉田長之助ノ女年十二誤テ井ニ陥テ其額ヲ傷ケリ則チ荻野氏ヲ請ヒシニ大見其創痕ヲ口汲シテ残留スル所ノ砂塵ヲ掌メ取り其餘針縫繃帶等ノ施術ニ至ルマテ甚タ深切ナリ治療終テ其父ニ論シテ曰クキク汝毎ニ酒ヲ嗜ミ過飲スレハ醉倒シテ人莫ヲ失フト今其害ヲ子ニ及ボシ加之生涯創痕ヲ女子ノ面上ニ遺スコト愁フ可ク憐ムヘキノ甚シキニ非スマ今汝若干ノ金ヲ以テ我ニ謝ス凡我反テ喜ハス冀クハ自今強勵謹

慎シ飲酒ヲ節ニシ後害ナカラシメハ何ノ幸カ之ニ加ヘント父感泣シテ今荻野氏ノ辞ヲ服膺シテ之ヲ守レル由是亦市街ノ一小義事ナリト或入語レリ
○今般第一大區役所へ守田勘弥及ヒ狂言作者河竹新七櫻田治助ヲ呼出サレ抑演劇ノ儀ハ勸懲ヲ旨トナスヘキハ勿論ナカラズ後全夕狂言綺語ト云ル言ヲ癡スヘシ譬ハ羽紫秀吉ヲ真紫久吉トス童蒙若シ久吉ヲ以テ豊公ノ名ト覺ヘ春永ヲ以テ織田氏ノ名ト合点セバ竟ニ事ヲ過ツニ至ラン其余都テ事實ニ及ス可ラス強チ堅キヲ是トシテ洒落ヲ非トスルニモアラス溜哇滑

替ニモ又教トナルベキアレハ能是等ヲ注意シ外兩坐
他ノ作者ヘモ傳達アルベキ旨ヲ説諭アリタル由

○三月十五日淺草今戸町ノ失火ハ同町質屋渡世松本
愛女召仕源助ト云ヘル者附火シタル由此節同人召捕
ニ相成タリ

○新聞雜誌 日報社新聞 橫濱毎日新聞

右三種内外ノ事蹟新聞ヲ暢達シ勉職進步ノ一端ニモ
相成候ニ付毎日或ハ二日ヲ一率トシ各府縣へ相渡候
条此段相達候也 壬申三月廿七日 大藏省

新聞雜誌四十號終

報告

○西洋百工新書前編 後編 嗣出

清風閣主人敬白

此書ハ西洋理化ニ學ノ力ニ因テ造化ノ妙用ヲ究メ
述垂發明スル所ノ器械ノ中百工ニ裨益アル物ヲ按
草シ水素燈格碌兒水松根油ノ製法ヲ初メトシ各種
ノ物品工鍍金銀ヲナシ木石ヲ各色ニ染メ或ハ石
臘乾酪糖藏里没奈埵及ヒ名酒ヲ製造スル利器都テ
此編ニ擧クコノ餘居家必用ノ物品運重器械ノ製作
ハ後編ニ載ス從來二三ノ書上木有ト雖モ譯文体裁
原書ニ泥ニ初學通曉シ難シ故ニ先生ニ請テ平假名

用ヲヒ註解シ人ニ示スノ意深切テイチ叮嚀ニシテ口ツカ
ラ授ルカ如シ故ニ匠人俗夫ト雖モ一度卷ヲ閱キ給
ハ、直ニ器械ノ利用製作ハ妙義ヲ會得シ給ルベシ

東京芝口一丁目 書肆 和泉屋善兵衛發兌

○英人達刺斯ノ綴書ニ原キ著ハセシ書ヲ米澤ノ吉尾
扣一ナル者之ヲ譯シ更ニ印點ト和語トヲ加ヘ英音
論ト名ケ既ニ官許ヲ歴テ上本ニ及ハリ洋辭ノ格例
和語ノ比較ニ於テハ是ノ書ヲ以テ第一トス苟モ洋
學ニ志アルノ士ハ宜鋪之レニ就テ其正音ヲ質シ玉

賣弘所芝神明前 書肆 岡田屋嘉七

撰者伏テ四方ノ君子ニ告テ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バザル處多シ願クハ同好ノ人
何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スリ賣弘處ニ寄セ玉
ハ、次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニハ其住履姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ル、ナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
- 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
- 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一 金銀具外ノ貸借等
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 夫物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引掛
- 一 見世キ集會等ノ引掛
- 右等何レモ一行セ三字一度出板價三知宛同書併ニ度分ハ八度分
- 三度分ハ八度分ニテ御引受イタシ候

新聞雜誌定價一冊銀二匁 每週出版

當時發兌踊ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引
同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ毎冊發兌順序ヲ逐ニ本局ヨリ御届
候又遠方取次賣弘方望シノ人ハ本局ハ御引合ノ上御相談可申候

本局 東京兩國若松町 新 堂

東京兩國横山町三丁目 和泉屋金右工門 東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛

東京芝三島町 和泉屋市兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

大坂心齋橋道 河内屋吉兵衛 東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 大坂心齋橋道 河内屋喜兵衛